

しまね学びの縁結びハイスクールネットワーク

■ 島根県の高校教育が抱える課題

離島・中山間地域の小規模高校の点在と
教員の慢性的な不足

生徒の多様なニーズへの対応困難
(科目選択の狭さ、習熟度別指導の限界)

不登校生徒の増加
(個別対応の困難さ)

■ 本事業の目的

遠隔授業や通信教育による教育の方法を活用しながら、地理的状况や各学校・課程・学科の垣根を超えて、生徒の多様な学習ニーズに応える新たな高校ネットワークモデルを創出し、教育の質の向上を図る。

- ① 学校単独では開講が困難な科目・講座についての遠隔授業の実施
(教科・科目充実)
- ② 学校単独では対応が困難な不登校生徒に対する通信教育の実施
(学習機会保障)

■ 取組状況

拠点センターを中心とした高校ネットワーク 多様な遠隔授業を実施

- ・ 常設遠隔授業（情報Ⅱ、数学Ⅲ、生物）を仮設拠点から3高校へ配信
- ・ オンライン夏期講座（共通テスト対策）を県内高校生向けに開催
- ・ 情報Ⅱオンライン発表会を実施し、学習成果を発表
- ・ 遠隔授業公開授業を行い、取り組みを広く公開

環境・体制整備を推進

- ・ 未開設科目のニーズ調査を実施し、情報収集
- ・ R8以降の新拠点設計・移設準備を開始
- ・ 事業管理のための管理職を配置

通信教育ネットワークの構築

- ・ 「通信教育による不登校生徒等への学習支援制度」の実施
拠点センター作成の添削課題等の構成校（全県立高校）への提供
拠点センターの通信教育に係る参考資料のWeb限定公開

通信教育の運用モデルの創出に向けて

- ・ 実施状況や規程等の見直し状況について調査し、事例を収集



しまね学びの縁結びハイスクールネットワーク

■ 遠隔授業の成果

- ・地理的制約や教員不足による未開講科目の提供を実現し、学習機会を拡大。
- ・少人数指導やICT活用により、個別最適な学びと授業の質が向上。
- ・教員のオンライン指導スキルが向上し、ノウハウが蓄積。
- ・学校間・地域間（県外含む）の連携・交流が促進。

■ 遠隔授業の様子



■ 教職員の感想

少人数教育のメリット

心理的安全性が確立され、生徒の様子がよく見え、対面以上に近く感じられた。

教材作成とスキルアップ

遠隔授業用の教材（スライド）を新たに作成し、教材ストックが豊かになった。
Notebook LMなどのツール活用で自身のスキルアップに繋がった。

個別指導の工夫

スライドの即時配布、自宅演習（Google Meet利用）、マーク演習の事前Googleフォーム入力・解説動画提供など、生徒のペースに合わせた工夫。

学習効果の実感

共通テストでの良い結果など、具体的な生徒の学力向上に手応えを感じた。

新たな連携・交流

他校（鹿児島県喜界高校）との情報共有や生徒・教員間の交流が実現。異なる環境での触れ合いが刺激となった。

授業デザインの工夫

生徒の集中維持のため、VR、ロボット、QRコード、3次元アートなど興味を惹くコンテンツや小道具を活用した。チャットや画面共有も活用し、大人数でもコミュニケーションを図れる工夫。

生徒情報の不足

生徒の模試結果、進路、部活動、私生活などの情報が得られにくく、信頼関係構築や適切な声かけが難しかった。受信校の先生との連携が不十分な場合もあった。

授業運営の連携

受信校の先生が授業内容をどの程度把握しているか不明な場合があり、円滑な連携に課題。

事務的負担

授業時間や曜日が固定されることによる受信校側の事務的な負担。

■ 遠隔授業の課題

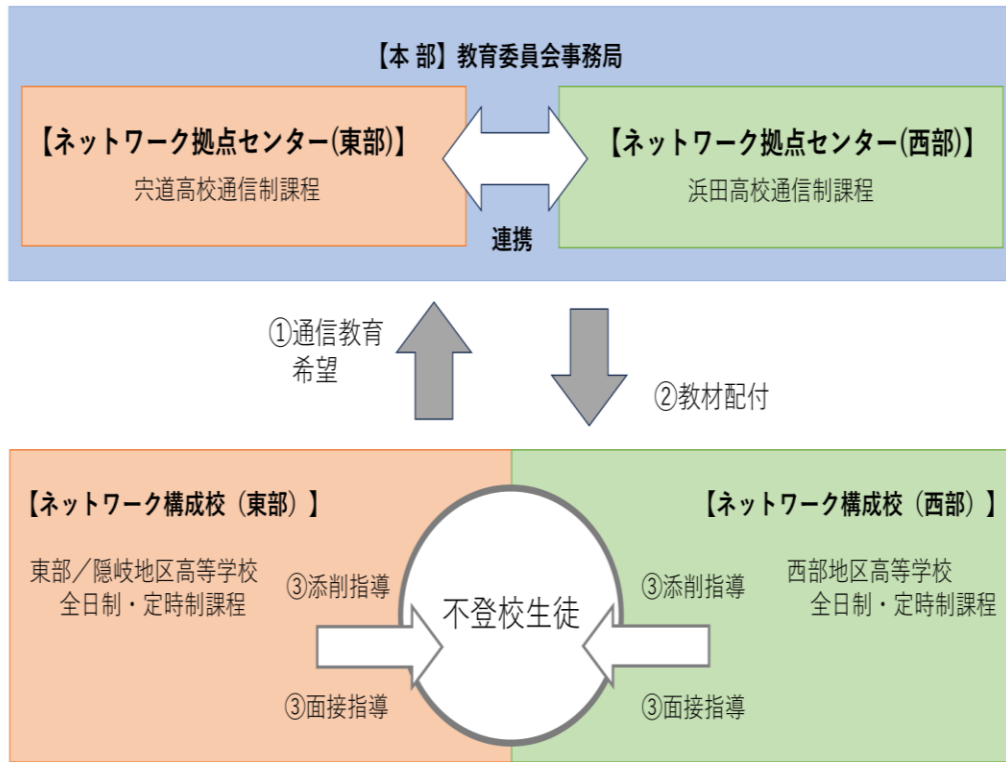
- ・生徒情報の把握や受信校との連携、配信者の確保に課題。
- ・遠隔授業に関する明確なルール・規定が未整備。
- ・関係者間の連絡調整、情報共有の迅速化。

■ 今後の方向性

- ・継続的な配信科目・配信校の拡充と授業の質向上。
- ・持続可能な実施体制（人材確保、ルール整備、連携強化）の確立。
- ・成果の普及と横展開、事業評価を通じた改善の循環。

しまね学びの縁結びハイスクールネットワーク

「通信教育による不登校生徒等への学習支援制度」



実施事例

対象生徒等	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年（2名） ・実施時間：約100～120時間 ・対応科目：10科目程度
対象生徒の決定の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・各校において教務規程等を見直し、認定基準を設定 ・校内の支援委員会で実施の可否を検討し、職員会議で全体周知 ・医療機関との連携
添削課題について	<ul style="list-style-type: none"> ・自校で教材や課題を作成（紙媒体、電子媒体） ・本人への手渡し及び学習ポータルを活用して配布
面接指導について	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時に面接指導を実施 ・実技教科は、通信教育と対面個別指導を併用
単位認定	あり

教職員の感想

・ 添削課題の作成に関して校内から「負担が大きい」といった声は上がらなかった。
 ・ 拠点センターの教材を、自校での教材作成の参考にできるとよい。
 ・ 遠隔授業よりも通信教育の方が取り組みやすく感じている。
 ・ 生徒の状況に応じて、生徒自身が通信教育か遠隔授業を選べるようにしている。

■ 成果と課題

成果

- 不登校生徒等への学習支援に対する理解の促進
 - ・ 教務規程等の見直しを図る学校の増加
 - ・ 不登校生徒等への遠隔授業・通信教育の実施件数の増加 → モデルケースの抽出

課題

- 採択教科書の違いによる教材共有化の壁
- 対象生徒の決定、評価基準の設定の壁

■ 今後の方向性

- 通信教育による学習支援制度の整備
- ・ ネットワーク拠点センター参考資料のWeb公開
- 通信教育の実施モデルの構築
- 学習アプリ・オンデマンド教材の活用の研究